

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	100,000	20,000	0	10,000	0
支払家賃	300,000	0	10,000	0	15,000
通信費	200,000	30,000	0	0	0
保管料	250,000	0	20,000	30,000	0
修繕料	500,000	100,000	150,000	0	50,000

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(1,000,000)円で、年間基準操業度は(100)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(70)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(20)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(1,300,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	3,000	500	300	2,000	1,000
支払家賃	5,000	0	0	3,000	2,000
通信費	1,000	0	0	200	200
保管料	2,000	0	0	1,000	1,000
修繕料	4,000	0	0	3,000	1,000

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(800,000)円で、年間基準操業度は(5)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(7)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(8)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は()円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	200,000	23,000	7,000	15,000	5,000
支払家賃	450,000	5,000	15,000	8,000	12,000
通信費	300,000	20,000	10,000	2,000	2,000
保管料	350,000	5,000	25,000	30,000	5,000
修繕料	400,000	10,000	5,000	7,500	8,000

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(10,000)円で、年間基準操業度は(2)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(1)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(1)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は()円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	200,000	20,000	0	10,000	0
支払家賃	300,000	0	20,000	0	0
通信費	200,000	10,000	0	10,000	10,000
保管料	400,000	0	30,000	30,000	0
修繕料	200,000	20,000	20,000	0	0

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(120,000)円で、年間基準操業度は(190)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(150)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(40)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(150,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	300,000	30,000	10,000	25,000	10,000
支払家賃	400,000	20,000	25,000	20,000	20,000
通信費	300,000	18,000	20,000	20,000	20,000
保管料	200,000	30,000	25,000	30,000	30,000
修繕料	200,000	10,000	6,000	7,000	8,000

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(10,000)円で、年間基準操業度は(2)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(1)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(1)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は()円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	2,160,000	470,000	0	680,000	0
支払家賃	7,000,000	0	950,000	0	850,000
通信費	2,800,000	730,000	0	0	0
保管料	1,300,000	0	240,000	360,000	0
修繕料	870,000	80,600	75,000	67,400	41,800

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(2,160,000)円で、年間基準操業度は(4,500)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(200)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(170)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(180,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	35,000	4,000	0	4,000	0
支払家賃	125,000	0	50,000	0	25,000
通信費	25,000	2,000	1,000	0	0
保管料	39,850	10,000	0	15,000	18,000
修繕料	12,258,888	250,000	4,064	4,824	0

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(1,080,000)円で、年間基準操業度は(2,400)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(120)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(80)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(100,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	300,000	120,000	60,000	0	0
支払家賃	1,000,000	0	30,000	0	30,000
通信費	20,000	0	0	0	0
保管料	150,000	0	25,000	0	25,000
修繕料	700,000	100,000	0	100,000	0

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(500,000)円で、年間基準操業度は(1,000)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(500)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(200)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(350,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	10,000	1,000	0	500	0
支払家賃	30,000	0	1,000	0	500
通信費	15,000	5,000	0	0	0
保管料	20,000	0	2,000	3,000	0
修繕料	0	0	0	0	0

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(1,000,000)円で、年間基準操業度は(1,000)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(600)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(200)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(1,300,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	400,000	40,000	0	35,000	0
支払家賃	90,000	0	10,000	0	8,000
通信費	300,000	22,000	0	0	0
保管料	200,000	0	40,000	35,000	0
修繕料	150,000	8,000	10,000	6,000	7,500

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(700,000)円で、年間基準操業度は(1,400)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(70)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(47)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(60,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	300,000	20,000	0	10,000	0
支払家賃	60,000	0	10,000	0	10,000
通信費	10,000	0	5,000	0	0
保管料	15,000	2,000	0	1,000	0
修繕料	5,000	1,000	2,000	3,000	4,000

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(120,000)円で、年間基準操業度は(120)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(70)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(40)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(140,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	200	50	0	0	50
支払家賃	100	0	40	40	0
通信費	100	40	0	20	20
保管料	200	60	0	0	20
修繕料	500	100	100	100	200

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(1,000)円で、年間基準操業度は(5)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(2)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(3)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(1,200)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	300,000	0	12,000	0	15,000
支払家賃	800,000	30,000	0	45,000	0
通信費	90,000	0	11,000	16,000	16,000
保管料	270,000	31,000	40,000	0	10,000
修繕料	130,000	20,000	11,000	15,000	20,000

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(600,000)円で、年間基準操業度は(1,500)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(500)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(200)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(285,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	300,000	30,000	0	20,000	0
支払家賃	500,000	0	20,000	0	17,000
通信費	320,000	40,000	0	0	0
保管料	360,000	0	12,000	40,000	0
修繕料	50,000	3,000	4,000	7,000	10,000

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(3,000,000)円で、年間基準操業度は(300)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(170)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(100)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(3,200,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	600,000	40,000	0	30,000	0
支払家賃	600,000	0	30,000	0	30,000
通信費	40,000	20,000	5,000	5,000	5,000
保管料	100,000	0	50,000	0	50,000
修繕料	200,000	15,000	0	5,000	0

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(1,200,000)円で、
年間基準操業度は(120)時間である。10月に、仕掛品Aに要した
実際作業時間は(4)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は
(6)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(120,000)円であった。予定配賦額と
実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が
発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	500,000	50,000	0	50,000	0
支払家賃	100,000	0	10,000	0	30,000
通信費	50,000	20,000	0	0	0
保管料	25,000	0	15,000	30,000	0
修繕料	100,000	10,000	5,000	5,000	10,000

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(1,000,000)円で、年間基準操業度は(1,000)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(600)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(300)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(900,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	200,000	130,118	0	19,882	0
支払家賃	300,000	0	130,072	0	19,928
通信費	500,000	0	130,036	9,964	9,964
保管料	40,000,000	20,131,021	0	0	19,868,979
修繕料	60,000,000	19,940,907	19,930,714	19,950,216	9,960,409

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(3,000,000)円で、年間基準操業度は(600)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(30)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(20)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(200,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	400,000	50,000	0	20,000	0
支払家賃	300,000	20,000	0	10,000	0
通信費	20,000	0	2,000	0	0
保管料	10,000	0	4,000	2,000	0
修繕料	23,000	3,000	0	5,000	0

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(500,000)円で、年間基準操業度は(500)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(320)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(180)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(1,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	100,000	20,000	0	10,000	0
支払家賃	25,000	0	15,000	0	10,000
通信費	5,000	2,000	0	0	0
保管料	2,000	0	1,000	1,000	0
修繕料	100,000	5,000	5,000	5,000	5,000

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(1,000,000)円で、年間基準操業度は(2,304)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(192)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(192)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(1,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	200,000	25,000	15,000	20,000	20,000
支払家賃	500,000	45,000	25,000	35,000	35,000
通信費	180,000	20,000	15,000	10,000	10,000
保管料	150,000	15,000	10,000	8,000	17,000
修繕料	120,000	10,000	5,000	7,000	8,000

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(200,000)円で、年間基準操業度は(800)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(35)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(45)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(21,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	300,000	25,000	0	0	30,000
支払家賃	370,000	0	20,000	0	10,000
通信費	300,000	10,000	0	0	0
保管料	290,000	0	10,000	35,000	0
修繕料	520,000	20,000	10,000	20,000	15,000

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、()円で、
年間基準操業度は()時間である。10月に、仕掛品Aに要した
実際作業時間は()時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は
()時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(102,000)円であった。予定配賦額と
実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が
発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	10,000	2,000	0	3,000	0
支払家賃	35,000	0	5,000	0	0
通信費	20,000	6,000	0	0	0
保管料	25,000	0	10,000	5,000	0
修繕料	30,000	0	0	0	0

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(100,000)円で、年間基準操業度は(3)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(4)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(5)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(105,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	20,000	2,300	0	1,500	0
支払家賃	45,000	0	1,500	0	1,200
通信費	30,000	2,000	0	0	0
保管料	35,000	0	2,500	3,000	0
修繕料	40,000	1,000	500	750	800

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(150,000)円で、
年間基準操業度は(2)時間である。10月に、仕掛品Aに要した
実際作業時間は(3)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は
(4)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(170,350)円であった。予定配賦額と
実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が
発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	20,000	15,000	0	10,000	0
支払家賃	45,000	0	20,000	0	10,000
通信費	10,000	2,000	0	0	0
保管料	25,000	0	5,000	10,000	0
修繕料	30,000	5,000	2,500	3,000	4,500

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(2,600,000)円で、年間基準操業度は(1,300)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(1,500)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(1,400)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(5,600,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	200,000	2,000	0	4,500	0
支払家賃	450,000	3,100	4,000	1,700	0
通信費	300,000	25,700	32,000	43,000	43,000
保管料	350,000	0	7,300	2,500	6,700
修繕料	400,000	51,000	29,000	71,000	23,000

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(19,200,000)円で、年間基準操業度は(9,600)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(374)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(426)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(1,616,600)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	200,000	100,000	0	150,000	0
支払家賃	300,000	0	200,000	0	400,000
通信費	400,000	300,000	0	0	0
保管料	500,000	0	100,000	200,000	0
修繕料	600,000	100,000	300,000	200,000	500,000

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(1,200,000)円で、
年間基準操業度は(120,000)時間である。10月に、仕掛品Aに要した
実際作業時間は(20)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は
(30)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(2,200)円であった。予定配賦額と
実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が
発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	375,689	134,578	243,789	67,730	0
支払家賃	345,890	0	78,930	55,630	0
通信費	589,236	0	78,930	55,630	55,630
保管料	787,630	11,111	0	0	23,560
修繕料	456,932	12,450	67,880	90,756	89,230

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(2,100,000)円で、年間基準操業度は(70)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(40)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(30)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(2,160,136)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	200,000	13,000	0	25,000	0
支払家賃	420,000	0	120,000	0	15,000
通信費	350,000	250,000	0	70,000	0
保管料	300,000	0	20,000	35,000	0
修繕料	40,000	10,000	5,000	7,000	8,000

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(960,000)円で、年間基準操業度は(80)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(2)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(4)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(7,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	300,000	300,000	0	40,000	0
支払家賃	400,000	0	50,000	0	60,000
通信費	500,000	70,000	0	0	0
保管料	600,000	0	90,000	15,000	0
修繕料	700,000	10,000	30,000	20,000	30,000

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(1,200,000)円で、年間基準操業度は(120)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(4)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(6)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(120,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	300,000	40,000	0	25,000	0
支払家賃	520,000	0	13,000	0	17,000
通信費	470,000	50,000	0	0	0
保管料	330,000	0	20,000	19,000	0
修繕料	700,000	19,000	300,000	250,000	24,000

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(2,400,000)円で、
年間基準操業度は(360)時間である。10月に、仕掛品Aに要した
実際作業時間は(25)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は
(40)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(260,000)円であった。予定配賦額と
実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が
発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	15,000	2,000	1,000	3,000	5,000
支払家賃	40,000	1,000	6,000	0	1,000
通信費	35,000	0	29,000	0	0
保管料	10,000	0	1,000	0	1,000
修繕料	3,000	2,000	1,000	2,000	5,000

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(70,000)円で、
年間基準操業度は(3,000)時間である。10月に、仕掛品Aに要した
実際作業時間は(2,000)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は
(1,000)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(77,000)円であった。予定配賦額と
実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が
発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	2,000	230	0	150	0
支払家賃	4,500	0	150	0	120
通信費	3,000	200	0	0	0
保管料	1,500	0	250	300	0
修繕料	4,000	100	50	75	80

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(15,000)円で、
年間基準操業度は(2)時間である。10月に、仕掛品Aに要した
実際作業時間は(3)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は
(4)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(17,035)円であった。予定配賦額と
実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が
発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	50,000	0	5,000	6,000	0
支払家賃	30,000	9,000	0	4,000	0
通信費	20,000	0	3,000	0	0
保管料	1,000	0	6,000	0	1,000
修繕料	40,000	9,000	4,000	5,000	3,000

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(1,000)円で、
年間基準操業度は(1,200)時間である。10月に、仕掛品Aに要した
実際作業時間は(600)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は
(500)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(110,000)円であった。予定配賦額と
実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が
発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	250,000	20,000	0	18,000	0
支払家賃	550,000	0	250,000	0	200,000
通信費	400,000	25,000	0	0	0
保管料	450,000	0	35,000	40,000	0
修繕料	500,000	15,000	10,000	8,000	9,500

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(2,000,000)円で、
年間基準操業度は(120)時間である。10月に、仕掛品Aに要した
実際作業時間は(6)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は
(4)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(2,100,000)円であった。予定配賦額と
実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が
発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	100,000	1,500	1,200	800	1,000
支払家賃	150,000	0	3,000	40,000	0
通信費	165,000	17,000	0	12,000	12,000
保管料	180,000	0	65,000	0	47,000
修繕料	200,000	39,000	0	0	20,000

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(3,600,000)円で、年間基準操業度は(900)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(35)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(40)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(320,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	327,000	27,000	0	17,000	0
支払家賃	423,000	0	23,000	0	23,000
通信費	201,000	23,000	0	24,000	24,000
保管料	350,000	0	7,000	8,000	0
修繕料	340,000	23,000	1,000	23,000	20,000

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(120,000)円で、年間基準操業度は(3,000)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(200)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(50)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(12,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	200,000	10,000	0	15,000	0
支払家賃	150,000	0	20,000	0	1,000
通信費	80,000	20,000	0	0	0
保管料	10,000	0	1,000	5,000	0
修繕料	300,000	1,000	2,000	3,000	4,000

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(1,200)円で、
年間基準操業度は(60)時間である。10月に、仕掛品Aに要した
実際作業時間は(4)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は
(6)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(200)円であった。予定配賦額と
実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が
発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	200,000	0	1,500	0	3,500
支払家賃	300,000	2,500	0	3,000	0
通信費	100,000	1,300	0	0	0
保管料	20,000	0	500	5,000	0
修繕料	30,000	4,000	1,000	2,000	0

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(300,000)円で、年間基準操業度は(150)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(125)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(25)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(320,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	200,000	30,000	0	50,000	0
支払家賃	300,000	0	30,000	0	50,000
通信費	100,000	50,000	0	0	0
保管料	150,000	10,000	20,000	40,000	0
修繕料	150,000	0	50,000	20,000	30,000

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(120,000)円で、年間基準操業度は(600)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(30)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(20)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(15,000)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。

1. 次の経費について、それぞれ適当な金額を入れて、矛盾のないように表を完成させてください。

経費	当月支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権使用料	800	100	100	50	100
支払家賃	750	50	50	80	100
通信費	1,000	100	150	50	50
保管料	400	200	20	60	100
修繕料	200	30	100	70	30

2. 本会計年度における予定製造間接費(年間)は、(37,800)円で、年間基準操業度は(2,000)時間である。10月に、仕掛品Aに要した実際作業時間は(1,430)時間、仕掛品Bに要した実際作業時間は(570)時間であった。製造間接費を仕掛品へ振り替える仕訳を示しなさい。
3. 10月の製造間接費実際発生額は(3,150)円であった。予定配賦額と実際消費額の差異の仕訳を示しなさい。差異は不利差異(借方差異)が発生するように金額は設定すること。